

6月30日(水)

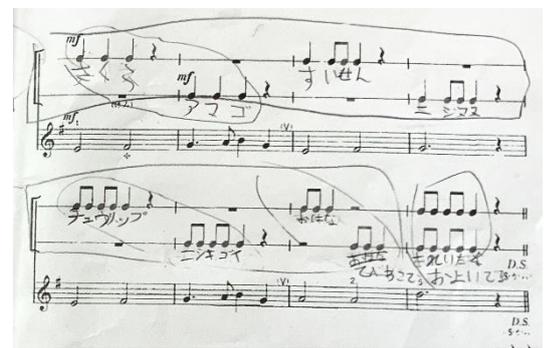
第4学年 音楽科 リズムを「味つけ」して楽しもう



「1小節ごとの追いかけてっこ」について、リズムと「呼びかけとこたえ」を関わらせることで、その面白さやリズムと言葉の関わりについて探究していく学習を提案しました。

第4学年の子供たちが向かおうとするものを「質的な広がり」と捉え、リズムと言葉の関わりや呼びかけとこたえの対応などに関わる表現の工夫を質的に高めていく学びを目指しました。

子供たちが「ことば」を選ぶことで、拍を意識し、その拍に合う言葉を選択する過程で、リズムに対する面白さを実感していく姿や選ぶ言葉にテーマを持たせることで、「動物」や「花」、



りの中で、リズムとことばの関わりを楽しむ姿がありました。

途中、グループ間交流を仕組むことで、アドバイスや新たな視点を取り入れ、自分の「味付け」に生かす姿もありました。

それまで、「名前」ばかりを連ねていた子供たちが、全体交流の場で「締めのリズム」に授業者が焦点化することによって、名前の掛け合いの最後を「おいしいな」「きれいだな」というような感想の言葉で締めるように変化し、言葉の添え方にも工夫が生まれていきました。

第5学年 理科 植えて 育てて いっぱい増やそう



植物の結実について、「結実には受粉が必要なのか」を確かめるためのより確かな方法を探究する学習を提案しました。

第5学年の子供たちが浸れる場を「問題解決における自己決定の機会」と捉え、実験のための方法や手順を自分たちの力で「より確かなもの」にしていく学びを目指しました。

他者とのズレに第5学年の子供たちが「揺らぐもの」と考え、カフェテリア方式で交流の場を持ち、他グループとの考えの違いや方法の違い

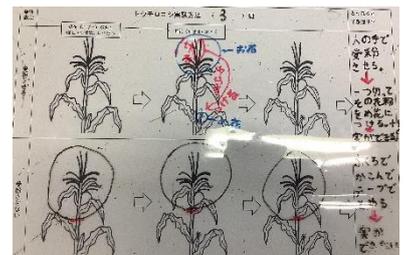


いから「より確かに」受粉させたり、受粉できないようにしたりする方法について他者の考えに影響されながら、

「受粉させる方は、風や虫に任せるより人の手で受粉させた方が確実だよ。」

「受粉させない方は、網をかぶせようと思ったけど、風で花粉が運ばれるかもしれないから袋の方がいいよ。」

「めしべをとってしまうという意見があったけど、それをすると受粉させる方と条件がそろわなくなるよ。」とより確かな方法を検討して更新する姿がありました。



◎ 滋賀大学教育学部 糸乗 前 教授に指導助言をいただきました。

◎ 滋賀県総合教育センター 校内研究活性化プロジェクト研究の7名の先生が参加されました。

◎ 教職大学院実習として4名の学生が参加しました。